

(8) 中国



中国地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、_ は下方に変更)

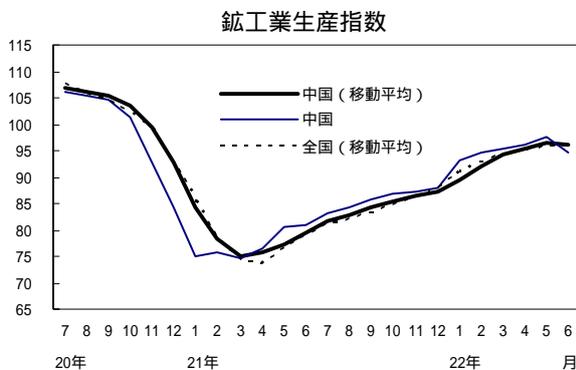
前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年5月)	今回(平成22年8月)	
住宅建設	大幅に減少	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

鉄鋼は、6月に定期修理があったことにより粗鋼、普通鋼鋼板が減少したものの、国内外の自動車や家電向けの需要が好調であるため、緩やかに増加している。化学は、中国向け自動車需要が好調なため、合成ゴム、パラキシレン等を中心に増加している。輸送機械は、国内外の需要が好調で乗用車を中心に増加していたが、6月はその反動で減少し、4～6月期全体として減少している。一般機械は、半導体製造装置が増加しているものの、化学機械、印刷機械を中心に低調であったため、おおむね横ばいとなっている。電子部品・デバイスは、薄型テレビ、携帯電話、デジタルカメラ向けの需要が好調であるため、モス型半導体集積回路、半導体集積回路を中心に増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

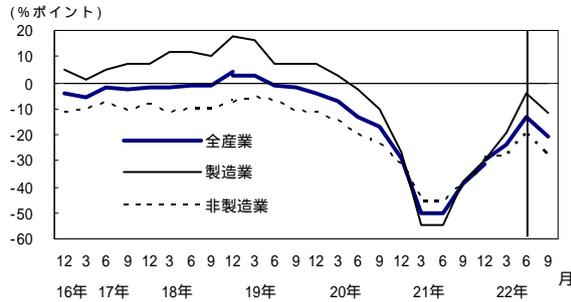
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
鉄鋼	16.5	11.5	2.7	9.2	11.1
化学	16.1	0.8	3.5	1.5	9.0
輸送機械	14.8	12.7	1.6	0.1	17.3
一般機械	10.7	14.7	0.1	0.7	11.5
電子部品・デバイス	7.3	7.5	13.4	17.7	-
鉱工業	100.0	8.1	1.8	3.2	2.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 4～6月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

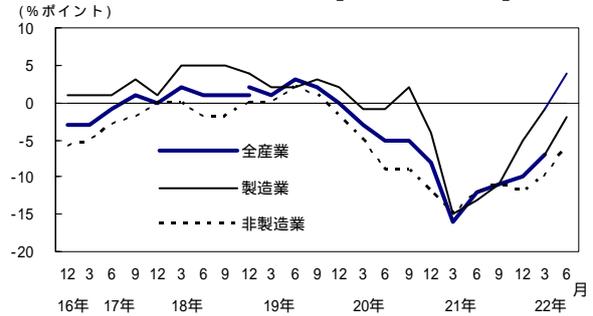
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

企業短期経済観測 [業況判断]



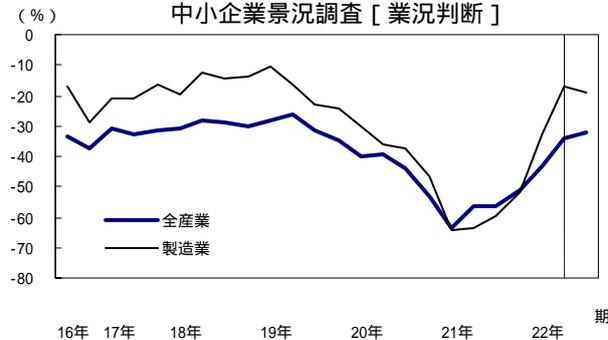
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年9月は予測。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「来客数や成約件数が横ばいである(不動産業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

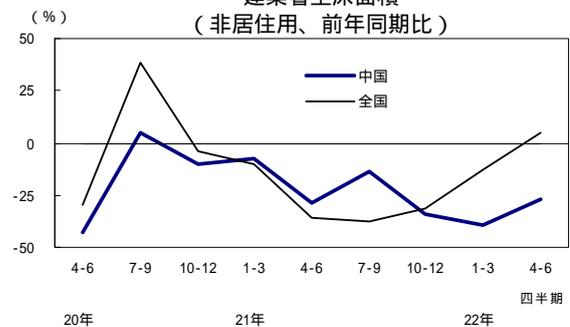
(3) 22年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	26.6(3.3)	1.4(5.2)
製造業	30.7(0.9)	0.6(8.9)
非製造業	21.4(5.8)	3.6(1.6)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



(8) 中国

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

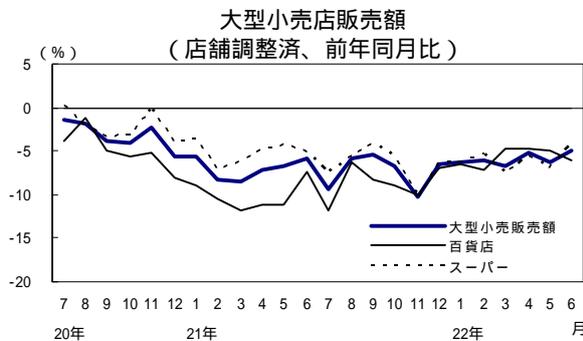
大型小売店販売額

4月は、月を通して気温の低い日が続いたため、主力の衣料品が低調に推移したものの、飲食料品で精肉、青果、鮮魚に堅調な動きがみられたことから前年比の減少幅が横ばいとなった。5月は、好天に恵まれた上旬に春物・初夏物衣料に動きがみられたものの、中旬以降の気温低下により、衣料品全体では低調に推移したこと、飲食料品が苦戦したことなどから前年比の減少幅が拡大した。6月は、衣料品は父の日関連で機能性のシャツなど一部の商品に動きがみられたが、全体的に依然として低調に推移したこと、飲食料品が苦戦したことなどから前年比の減少幅が拡大した。日本百貨店協会によると、7月の中国地区の売上高は、前年同月比で2.8%減となっている。

スーパーは、衣料品が低調であったものの、飲食料品では野菜が高値推移の中、堅調だったことなどから、前年同期比の減少幅が縮小した。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「夏物バーゲンセールに入り、客の消費意欲が出るとみていたが、予算を決めて必要なもののみ購入する様子がかがえる(その他専門店[布地])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

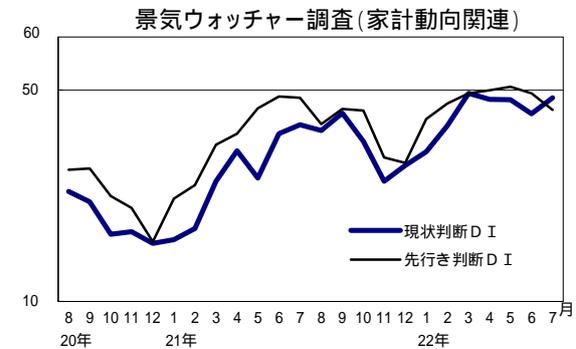


	(前年同期比、%)			
	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月
大型小売店	7.0	7.8	6.4	5.5
百貨店	9.1	8.5	6.0	5.2
スーパー	5.9	7.3	6.5	5.6
乗用車	4.0	18.2	22.3	18.3
景気ウォッチャー	40.7	34.4	39.9	45.5

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、貸家、持家が前年を下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を上回っている。

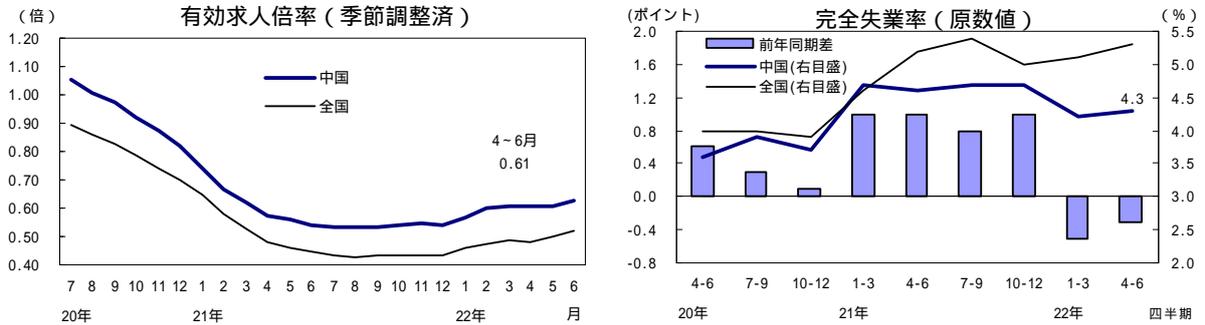


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連(現状)]

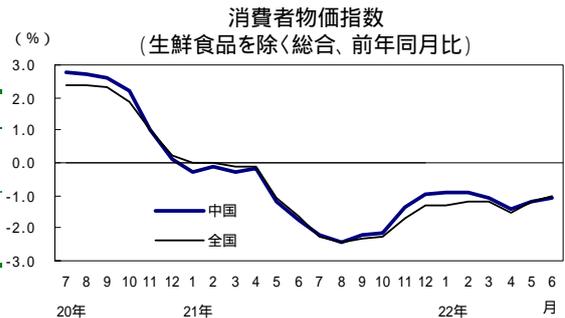
「来年4月入社を採用人数も決まっていない企業がある(新聞社[求人広告])」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月	22年7月
倒産件数	156	156	118	111	38
(前年比)	17.5	21.6	33.7	24.5	19.1
負債総額	325	466	367	244	57
(前年比)	90.1	8.1	61.4	67.2	13.1



景気ウォッチャー調査 (7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・NHKの連続テレビ小説の効果により、観光客が団体、個人とも増え、売行きが良くなってきている(その他専門店[海産物])

<先行き>

・国内受注は全体としては現状維持を見込んでいるが、円高による中国を中心とするアジア地域への輸出の減少が懸念される(鉄鋼業)

